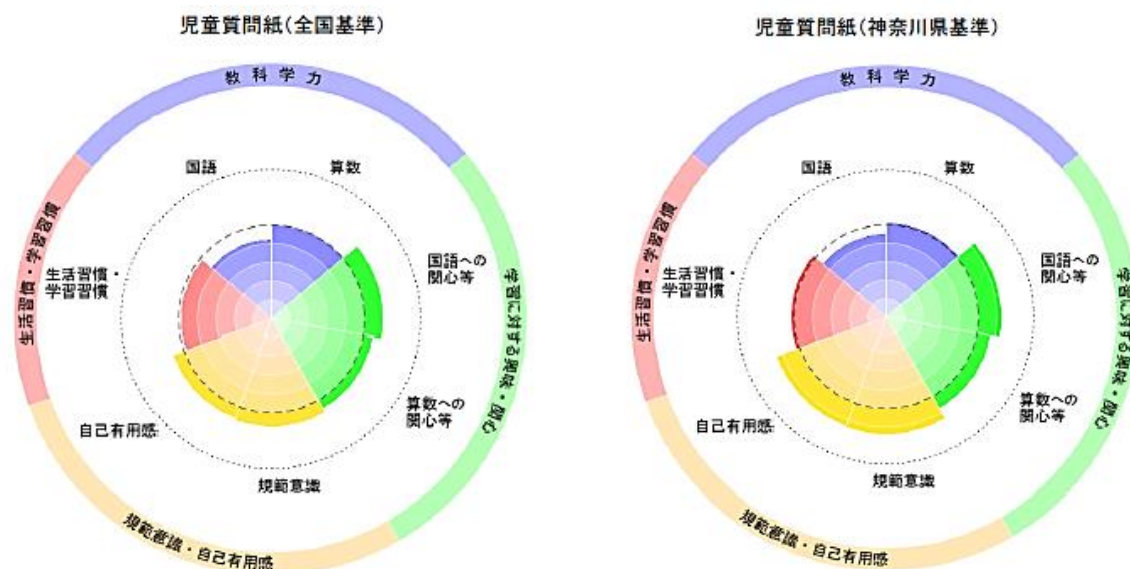


令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

例年実施されている小学校6年生および中学校3年生を対象に行われる全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。調査は「国語」「算数」「児童アンケート」の3つで、それぞれの結果を全国および県の平均と比較する形で報告します。



国語

全国・県平均まで6.7%の差
「話すこと・聞くこと」の力に課題

学習指導要領で示されている「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の4観点について、平均正答率を県及び全国の平均値と比較した。

全体の平均正答率は全国の64.7%に対し、58%と差が見られた。上記の観点別にみると、それぞれの観点においても県および全国の平均との差が見られたが、その中でも「話すこと・聞くこと」に関する力を試す問題で全国平均との差が顕著だった。

児童アンケートでは、全国平均よりも10%以上多い70%を超える児童が「国語の勉強が好き」と答えていることから、国語への興味関心の高さを生かして授業改善をしていくとともに、「自分の考えを伝えることのできる子」の育成を目指している校内研究においても検討を進めていく必要がある。

また、5年生で学習した漢字「積み(つみ)」を書かせる問題では、記述した児童のうち46%が「重」や「罪」、「積」などの誤った字を書いていた。本校の「漢字チャレンジテスト」の取り組みも引き続き続けていく必要があると考えられる。

算数

全国・県平均なみの平均正答率
算数へ高い関心

学習指導要領で示されている「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5観点について、平均正答率を県及び全国の平均値と比較した。

全体の平均正答率は70%で全国の70.2%、県の70%に並ぶ形となった。上記の5つの観点それぞれについても全国、県との大きな差は見られなかった。

平均と比べて顕著な差が見られた問題として、「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」問題で全国の正答率より7.3%低い結果となった。答えは合っていたが「求め方」の記述が正答条件を満たしていない児童が多いことから、物事の事柄や関係を論理的に書き表す力の必要性が見て取れる。合わせて、国語科における課題にもつながっていると見える。

また、全国で10.3%の児童が無回答だった難易度の高い問題に対し、本校の無回答率は6.0%と積極的に回答する姿勢が見られ、当該問題においては正答率も全国より6.2%上回っていた。児童アンケートでは「算数が好き」「算数の勉強が大切」と答えた児童が全国平均より7%以上高いことから、算数の学習に対する興味関心の高さが影響していると考えられる。

児童アンケートより

「前向き」な意識で全国に大きな差

「自分にはよいところがある」と答えた児童は49.3%、「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童は70%とそれぞれ全国平均を10%以上、上回っていた。さらに、「学校に行くのが楽しい」と答えた児童は73.1%と全国平均を25%も上回っており、本校の児童の多くが高い自己肯定感をもち、学校生活に対して前向きな姿勢をもっていることがわかった。これは、2年前より取り組んでいる、自らの成長を記録していく「自分づくりパスポート」の作成による効果ともとらえることができる。